《信徒奉仕職を担うために》

１３．奉仕職を担うために、まず大切なことは？

教会が、キリストによってゆだねられた役割を十分に果たしていくために、信徒奉仕職は不可欠な働きです。信徒奉仕職は教会の名のもとに行われる奉仕ですから、その役割を担う人は、まず教会の奉仕のあり方について基本的な理解を持たなければなりません。

ところで教会は、第二バチカン公会議をとおして、そのあり方を大きく変えなければならないことに気付くようになりました。そして、なぜこの世界に教会が存在するのかということの理解や、教会共同体の組織のあり方などについて、根源的な刷新を行いました。そのような新たな理解を身につけることは、奉仕職を担うために欠くことができません。

ここで必要とされる理解の要点を簡潔にまとめると、次のようになります。

① 教会の存在は、自己目的とされるのではなく、世に奉仕するものとしてある。
② 世に奉仕する役割は、信徒 修道者 司祭が等しく責任を担っている。
③ 信徒 修道者 司祭がそれぞれ担う責任は対等であるが、果たす役割は異なる。
④ 主に、信徒は直接社会と関わり、司祭は信徒を支えることによって奉仕する。

教会は長い間、これらの点について十分な注意を払ってこなかったことを反省し始めています。しかし、長い間に身につけてきた意識や行動の仕方が、なかなか変えられない現実もあります。新しい理解が、単に知識としてではなく実際の行動に結びついた理解となるよう、絶えず回心へと招かれています。

◇分かち合いのテーマ◇

＊店や企業などは、より多くの利用客を得るために、どんな努力や工夫をしているでしょうか。具体的な例をあげて考えてみてください。
さまざまな例を分かち合い、その中で共通した事柄としてどんなことがあるか、気付いたことを分かち合ってみましょう。

＊教会の奉仕がよりふさわしい奉仕となるために、教会の姿勢ややり方で、足りない、改めたほうがよいと思うことはありますか？　思いつくことを分かち合ってみましょう。